

## 第5 【経理の状況】

### 1 【連結財務諸表等（企業会計基準準拠）】

1. 当行の連結財務諸表（企業会計基準準拠）は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「長期信用銀行法施行規則」（昭和57年大蔵省令第13号）に準拠しております。

ただし、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成16年1月30日内閣府令第5号）附則第2項のただし書きにより、改正前の連結財務諸表規則及び長期信用銀行法施行規則に基づき作成しております。

2. 前連結会計年度（自平成15年4月1日至平成16年3月31日）及び当連結会計年度（自平成16年4月1日至平成17年3月31日）の連結財務諸表は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査に準じて、中央青山監査法人の監査証明を受けております。

その監査報告書は、連結財務諸表の直前に掲げております。

## 独立監査人の監査報告書

平成16年6月25日

日本政策投資銀行  
総裁 小村 武 殿

### 中央青山監査法人

代表社員  
関与社員 公認会計士 片山 英 木

関与社員 公認会計士 井上 雅 彦

当監査法人は、貴行の委嘱に基づき、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査に準じて、「経理の状況」のうち「連結財務諸表等（企業会計基準準拠）」に掲げられている日本政策投資銀行の平成15年4月1日から平成16年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結剰余金計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本政策投資銀行及び連結子会社の平成16年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

日本政策投資銀行と当監査法人又は関与社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

( ) 上記の原本は当行が別途保管しております。

## 独立監査人の監査報告書

平成17年6月24日

日本政策投資銀行  
総裁 小村 武殿

### 中央青山監査法人

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 片山 英木

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 井上 雅彦

当監査法人は、貴行の委嘱に基づき、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査に準じて、「経理の状況」のうち「連結財務諸表等（企業会計基準準拠）」に掲げられている日本政策投資銀行の平成16年4月1日から平成17年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結剰余金計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本政策投資銀行及び連結子会社の平成17年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

日本政策投資銀行と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

( ) 上記の原本は当行が別途保管しております。

## (1)【連結財務諸表等】

## 【連結貸借対照表】

(資産の部) (金額単位：百万円)

科目	年度別	前連結会計年度 (平成16年3月31日)		当連結会計年度 (平成17年3月31日)	
		金額	構成比	金額	構成比
貸出金	1,2,3,4,6	14,785,724	96.47	13,860,747	95.78
有価証券	5	426,971	2.79	394,840	2.73
金銭の信託		4,893	0.03	4,136	0.03
買現先勘定		77,166	0.50	107,999	0.75
現金預け金		19,305	0.13	20,556	0.14
その他の資産	7	304,750	1.99	245,399	1.69
動産不動産	5,8	38,081	0.25	37,638	0.26
債券繰延資産		2,249	0.01	2,594	0.02
支払承諾見返		76,812	0.50	98,757	0.68
貸倒引当金		395,881	2.58	280,284	1.94
投資損失引当金		13,903	0.09	20,767	0.14
資産の部合計		15,326,171	100.00	14,471,618	100.00

(負債、少数株主持分及び資本の部) (金額単位：百万円)

科目	年度別	前連結会計年度 (平成16年3月31日)		当連結会計年度 (平成17年3月31日)	
		金額	構成比	金額	構成比
債券		1,780,606	11.62	1,994,801	13.79
借入金		11,403,450	74.41	10,214,800	70.59
その他の負債		277,824	1.81	249,472	1.72
賞与引当金		1,659	0.01	1,651	0.01
退職給付引当金		32,172	0.21	32,218	0.22
支払承諾		76,812	0.50	98,757	0.68
負債の部合計		13,572,524	88.56	12,591,701	87.01
少数株主持分		-	-	4,498	0.03
資本金		1,194,286	7.79	1,215,461	8.40
利益剰余金		540,403	3.53	653,043	4.51
その他有価証券評価差額金		18,956	0.12	6,915	0.05
資本の部合計		1,753,646	11.44	1,875,419	12.96
負債、少数株主持分及び資本の部合計		15,326,171	100.00	14,471,618	100.00

【連結損益計算書】

(金額単位:百万円)

科目	前連結会計年度 自 平成15年4月 1日 至 平成16年3月31日		当連結会計年度 自 平成16年4月 1日 至 平成17年3月31日	
	金額	百分比	金額	百分比
経常収益	488,837	100.00%	434,806	100.00%
資金運用収益	485,098		426,271	
貸出金利息	483,195		424,615	
有価証券利息配当	1,890		1,648	
買現先利息	12		5	
預け金利息	0		2	
その他の受入利息	0		0	
役務取引等収益	2,757		2,211	
その他の業務収益	-		16	
その他の経常収益	981		6,306	
経常費用	414,660	84.83%	373,785	85.97%
資金調達費用	373,924		317,814	
債券利息	31,615		31,466	
借入金利息	329,073		271,583	
その他の支払利息	13,235		14,765	
役務取引等費用	21		57	
その他の業務費用	2,466		2,737	
営業経費	26,765		27,140	
その他の経常費用	11,483		26,036	
その他の経常費用 <sup>1</sup>	11,483		26,036	
経常利益	74,177	15.17%	61,020	14.03%
特別利益	40,052	8.19%	52,877	12.16%
動産不動産処分益	217		14	
償却債権取立益	2,048		1,864	
貸倒引当金戻入益	37,787		50,998	
特別損失	242	0.05%	35	0.00%
動産不動産処分損	242		35	
税金等調整前当期純利益	113,987	23.31%	113,863	26.19%
法人税、住民税及び事業税	0	0.00%	638	0.15%
法人税等調整額	-	-	0	0.00%
少数株主利益	-	-	584	0.13%
当期純利益	113,987	23.31%	112,639	25.91%

【連結剰余金計算書】

(金額単位:百万円)

科目	前連結会計年度 自 平成15年4月 1日 至 平成16年3月31日		当連結会計年度 自 平成16年4月 1日 至 平成17年3月31日	
	金額	金額	金額	金額
(利益剰余金の部)				
利益剰余金期首残高	426,416		540,403	
利益剰余金増加高	113,987		112,639	
当期純利益	113,987		112,639	
利益剰余金期末残高	540,403		653,043	

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(金額単位：百万円)

科目	年度別	
	前連結会計年度 自 平成15年4月 1日 至 平成16年3月31日	当連結会計年度 自 平成16年4月 1日 至 平成17年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	113,987	113,863
減価償却費	969	910
連結調整勘定償却	-	596
貸倒引当金の増加額	37,787	50,998
投資損失引当金の増加額	2,665	6,985
賞与引当金の増加額	115	8
退職給付引当金の増加額	716	46
資金運用収益	485,098	426,271
資金調達費用	373,924	317,814
有価証券関係損益( )	589	3,175
金銭の信託の運用損益( )	147	846
為替差損益( )	1	1
動産不動産処分損益( )	25	20
貸出金の純増( )減	882,668	845,506
債券の純増減( )	183,218	213,500
借入金の純増減( )	1,260,573	1,188,650
買現先勘定の純増( )減	115,713	30,832
資金運用による収入	474,911	424,042
資金調達による支出	387,216	330,978
その他	36,318	73,976
小計	59,299	32,806
法人税等の支払額( )・還付額	0	1
営業活動によるキャッシュ・フロー	59,299	32,804
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	60,006	334,168
有価証券の償還による収入	90,000	353,023
金銭の信託の増加による支出	2,946	5,926
金銭の信託の減少による収入	-	5,836
動産不動産の取得による支出	893	517
動産不動産の売却による収入	679	60
投資活動によるキャッシュ・フロー	26,834	18,307
財務活動によるキャッシュ・フロー		
政府出資金の受入れによる収入	12,000	21,175
国庫納付による支払額	-	7,799
財務活動によるキャッシュ・フロー	12,000	13,375
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	1
現金及び現金同等物の増加額	20,466	1,119
現金及び現金同等物の期首残高	39,718	19,251
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	297
現金及び現金同等物の期末残高	19,251	18,429

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

	前連結会計年度 自 平成 15年 4月 1日 至 平成 16年 3月 31日	当連結会計年度 自 平成 16年 4月 1日 至 平成 17年 3月 31日
1. 連結の範囲に関する事項	<p>(1) 連結子会社 1 社 DBJ 事業再生投資(株)</p> <p>(2) 非連結子会社 該当ありません。</p> <p>(3) 他の会社等の議決権の 100 分の 50 超を自己の計算において所有しているにもかかわらず当該他の会社等を子会社としなかった当該他の会社等の名称 (株)苫東、新むつ小川原(株) (子会社としなかった理由) 当行の主たる目的である資金供給業務の一環として出資したものであり、出資先の支配を目的とするものではないためであります。</p>	<p>(1) 連結子会社 2 社 DBJ 事業再生投資(株) 新規事業投資(株) 新規事業投資(株)は支配権の獲得により、当連結会計年度より連結の範囲に含めております。</p> <p>(2) 非連結子会社 同 左</p> <p>(3) 他の会社等の議決権の 100 分の 50 超を自己の計算において所有しているにもかかわらず当該他の会社等を子会社としなかった当該他の会社等の名称 同 左 (子会社としなかった理由) 同 左</p>
2. 持分法の適用に関する事項	<p>(1) 持分法適用の非連結子会社 該当ありません。</p> <p>(2) 持分法適用の関連会社 該当ありません。</p> <p>(3) 持分法非適用の非連結子会社 該当ありません。</p> <p>(4) 持分法非適用の関連会社 該当ありません。</p> <p>(5) 他の会社等の議決権の 100 分の 20 以上、100 分の 50 以下を自己の計算において所有しているにもかかわらず当該他の会社を関連会社としなかった当該他の会社等の名称 アドバンスねやがわ管理(株)、石狩開発(株)、(株)エイ・ディー・ディー、隠岐空港ターミナルビル(株)、小樽開発埠頭(株)、(株)オリオン、(株)加西北条都市開発、(株)柏崎情報開発センター、川西都市開発(株)、釧路重工業(株)、(株)釧路熱供給公社、(株)けいはんな、(株)さくら野百貨店、(株)札幌エネルギー供給公社、新規事業投資(株)、(株)テクノ・シーウエイズ、道南地熱エネルギー(株)、東北水力地熱(株)、苫小牧港開発(株)、苫小牧埠頭(株)、新潟原動機(株)、新潟トランス(株)、日本海エル・エヌ・ジー(株)、(株)日本コンベンションセンター、函館山ロープウェイ(株)、浜松都市開発(株)、北海道機械開発(株)、北海道トラックターミナル(株)、三沢空港ターミナル(株)、室蘭開発(株)、山形熱供給(株)、留萌港開発(株)、稚内港湾施設(株) (関連会社としなかった理由) 当行の主たる目的である資金供給業務の一環として出資したものであり、営業、人事、資金その他の取引を通じて出資先の支配を目的とするものではないためであります。</p>	<p>(1) 持分法適用の非連結子会社 同 左</p> <p>(2) 持分法適用の関連会社 同 左</p> <p>(3) 持分法非適用の非連結子会社 同 左</p> <p>(4) 持分法非適用の関連会社 1 社 (株)テクノロジー・アライアンス・インベストメント 持分法非適用の関連会社は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に重要な影響を与えないため、持分法の対象から除いております。</p> <p>(5) 他の会社等の議決権の 100 分の 20 以上、100 分の 50 以下を自己の計算において所有しているにもかかわらず当該他の会社を関連会社としなかった当該他の会社等の名称 アドバンスねやがわ管理(株)、石狩開発(株)、(株)エイ・ディー・ディー、(株)大川荘、隠岐空港ターミナルビル(株)、(株)オリオン、(株)加西北条都市開発、(株)柏崎情報開発センター、川西都市開発(株)、釧路重工業(株)、(株)釧路熱供給公社、(株)けいはんな、(株)さくら野百貨店、(株)札幌エネルギー供給公社、(株)テクノ・シーウエイズ、東北水力地熱(株)、苫小牧港開発(株)、苫小牧埠頭(株)、新潟原動機(株)、新潟トランス(株)、日本海エル・エヌ・ジー(株)、(株)日本コンベンションセンター、函館山ロープウェイ(株)、浜松都市開発(株)、北海道機械開発(株)、北海道トラックターミナル(株)、三沢空港ターミナル(株)、室蘭開発(株)、山形熱供給(株)、留萌港開発(株)、稚内港湾施設(株) (関連会社としなかった理由) 当行の主たる目的である資金供給業務の一環として出資したものであり、営業、人事、資金その他の取引を通じて出資先の支配を目的とするものではないためであります。</p>

	前連結会計年度 自 平成 15年 4月 1日 至 平成 16年 3月 31日	当連結会計年度 自 平成 16年 4月 1日 至 平成 17年 3月 31日
3. 連結子会社の事業年度等に関する事項	連結子会社の決算日は次のとおりであります。 3月末日 1社	連結子会社の決算日は次のとおりであります。 3月末日 2社
4. 会計処理基準に関する事項	(1) 有価証券の評価基準及び評価方法 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、その他有価証券のうち時価のあるものについては、連結決算日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）、時価のないものについては、移動平均法による原価法又は償却原価法により行っております。 なお、その他有価証券の評価差額については、全部資本直入法により処理しております。	(1) 有価証券の評価基準及び評価方法 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、その他有価証券のうち時価のあるものについては、連結決算日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）、時価のないものについては、移動平均法による原価法又は償却原価法により行っております。また、投資事業組合等への出資金については組合等の事業年度に係る財務諸表及び中間会計期間に係る中間財務諸表に基づいて、組合等の損益のうち持分相当額を純額で計上しております。 なお、その他有価証券の評価差額については、全部資本直入法により処理しております。
	(2) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法 デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。	(2) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法 同 左
	(3) 減価償却の方法 動産不動産 当行の動産不動産は、定率法（ただし建物（建物付属設備を除く）については定額法）を採用しております。 なお、主な耐用年数は次のとおりであります。 建物：22年～50年 動産：3年～20年	(3) 減価償却の方法 動産不動産 当行及び連結子会社の動産不動産は、定率法（ただし建物（建物付属設備を除く）については定額法）を採用しております。 なお、主な耐用年数は次のとおりであります。 建物：22年～50年 動産：3年～20年
	(4) 繰延資産の処理方法 債券発行差金は、償還期限までの期間に対応して償却しております。 債券発行費は、発生した期に全額費用として処理しております。	(4) 繰延資産の処理方法 同 左
	(5) 貸倒引当金の計上基準 当行の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。 破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下「破綻懸念先」という。）に対する債権のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができない債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を引き当てております。破綻懸念先及び今後の管理に注意を要する債務者に対する債権のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債	(5) 貸倒引当金の計上基準 当行の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。 破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下「破綻懸念先」という。）に対する債権のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができない債



	前連結会計年度 自 平成 15年 4月 1日 至 平成 16年 3月 31日	当連結会計年度 自 平成 16年 4月 1日 至 平成 17年 3月 31日
	<p>権については、当該キャッシュ・フローを当初の約定利率で割り引いた金額と債権の帳簿価額との差額を引き当てております。上記以外の債権については、当行の平均的な融資期間を勘案した過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。</p> <p>すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、投融資営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した査定部署が第二次査定を実施しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。</p> <p>なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は 55,184 百万円であります。</p>	<p>権については、当該キャッシュ・フローを当初の約定利率で割り引いた金額と債権の帳簿価額との差額を引き当てております。上記以外の債権については、当行の平均的な融資期間を勘案した過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。</p> <p>すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、投融資営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した査定部署が第二次査定を実施しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。</p> <p>なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は 104,845 百万円であります。</p>
(6) 投資損失引当金の計上基準	<p>時価のない株式に対し、将来発生する可能性のある損失を見積もり、必要と認められる額を計上しております。</p>	<p>(6) 投資損失引当金の計上基準</p> <p>同 左</p>
(7) 賞与引当金の計上基準	<p>賞与引当金は、従業員への賞与の支払に備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しております。また、賞与引当金には、役員に対するものが含まれております。</p>	<p>(7) 賞与引当金の計上基準</p> <p>同 左</p>
(8) 退職給付引当金の計上基準	<p>退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。また、数理計算上の差異の費用処理方法は以下のとおりであります。</p> <p>数理計算上の差異：発生年度において全額費用処理</p> <p>また、退職給付引当金には、役員に対するものが含まれております。</p>	<p>(8) 退職給付引当金の計上基準</p> <p>同 左</p>
(9) 外貨建資産・負債の換算基準	<p>当行及び連結子会社の外貨建の資産・負債については、連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。</p>	<p>(9) 外貨建資産・負債の換算基準</p> <p>同 左</p>
(10) リース取引の処理方法	<p>当行及び連結子会社のリース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております。</p>	<p>(10) リース取引の処理方法</p> <p>同 左</p>
(11) 重要なヘッジ会計の方針	<p>ヘッジ会計の方法</p> <p>繰延ヘッジ処理を採用しております。また、通貨スワップについては、為替変動リスクのヘッジについて振当処理の要件を充たしているため、振当処理を採用しております。</p> <p>ヘッジ手段とヘッジ対象</p> <p>a. ヘッジ手段...金利スワップ ヘッジ対象...債券及び借入金</p>	<p>(11) 重要なヘッジ会計の方針</p> <p>同 左</p>

	前連結会計年度 自 平成 15年 4月 1日 至 平成 16年 3月 31日	当連結会計年度 自 平成 16年 4月 1日 至 平成 17年 3月 31日
	<p>b. ヘッジ手段...通貨スワップ ヘッジ対象...外貨建金銭債権・外貨建債券</p> <p>ヘッジ方針</p> <p>金利リスク又は為替変動リスクをヘッジするため、対象債権債務の範囲内でヘッジを行っております。</p> <p>ヘッジの有効性評価の方法</p> <p>リスク減殺効果を定期的に検証し、ヘッジの有効性を再評価しております。</p>	同 左
	<p>(12) 消費税等の会計処理</p> <p>当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。</p>	<p>(12) 消費税等の会計処理</p> <p>同 左</p>
5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項	連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。	同 左
6. 連結調整勘定の償却に関する事項	該当ありません。	連結調整勘定は発生年度において一括償却しております。
7. 利益処分項目等の取扱いに関する事項	連結剰余金計算書は、連結会計期間において確定した利益処分に基づいて作成しております。	同 左
8. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金および債券の償還・利払いに係る財務代理人への信託金を除く預け金であります。	<p>連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び流動性預け金であります。</p> <p>(追加情報)</p> <p>当連結会計年度末より新たに保有することとなった定期性預け金については資金の範囲に含まれないこととしております。</p>

(表示方法の変更)

前連結会計年度 自 平成 15年 4月 1日 至 平成 16年 3月 31日	当連結会計年度 自 平成 16年 4月 1日 至 平成 17年 3月 31日
<p>(連結損益計算書関係)</p> <p>債券発行差金の償却額は、従来、「債券発行差金償却」として区分掲記しておりましたが、「長期信用銀行法施行規則の一部を改正する内閣府令」(平成 16 年内閣府令第 41 号)により、長期信用銀行法施行規則別紙様式が改正されたことに伴い、当連結会計年度からは「債券利息」に含めて表示しております。</p>	<p>(連結貸借対照表関係)</p> <p>従来、投資事業有限責任組合並びに民法上の組合及び匿名組合のうち投資事業有限責任組合に類するものの出資持分は、「その他資産」に含めて表示しておりましたが、「証券取引法等の一部を改正する法律」(平成 16 年 6 月 9 日法律第 97 号)により当該出資持分が証券取引法上の有価証券と定義されたことに伴い、当連結会計年度から「有価証券」に含めて表示しております。この変更により、「その他資産」は 50,459 百万円減少し、「有価証券」は同額増加しております。</p>

注 記 事 項

( 連結貸借対照表関係 )

前連結会計年度 平成 16年 3月 31日	当連結会計年度 平成 17年 3月 31日
<p>1. 貸出金のうち、破綻先債権額は 23,705 百万円、延滞債権額は 271,472 百万円であります。</p> <p>なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の延滞が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和 40 年政令第 97 号）第 96 条第 1 項第 3 号のイからホまでに掲げる事由又は同項第 4 号に規定する事由が生じている貸出金であります。</p> <p>また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。</p> <p>2. 貸出金のうち、3 ヶ月以上延滞債権額は 270 百万円であります。</p> <p>なお、3 ヶ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から 3 月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>3. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は 193,210 百万円であります。</p> <p>なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び 3 ヶ月以上延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>4. 破綻先債権額、延滞債権額、3 ヶ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は 488,658 百万円であります。</p> <p>なお、上記 1.から 4.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。</p> <p>5. 為替決済等の取引の担保として、有価証券 121,693 百万円を差し入れております。</p> <p>また、動産不動産のうち保証金権利金は 386 百万円であります。</p> <p>6. 貸出金に係る限度貸付契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。この契約に係る融資未実行残高は、90,985 百万円であります。このうち、1 年以内に融資予定のものは 49,517 百万円であります。</p> <p>7. ヘッジ手段に係る損益又は評価差額は、純額で繰延ヘッジ損失として「その他資産」に含めて計上しております。なお、上記相殺前の繰延ヘッジ損失の総額は 187,627 百万円、繰延ヘッジ利益の総額は 3,704 百万円であります。</p> <p>8. 動産不動産の減価償却累計額 19,059 百万円</p>	<p>1. 貸出金のうち、破綻先債権額は 25,762 百万円、延滞債権額は 233,765 百万円であります。</p> <p>なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の延滞が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和 40 年政令第 97 号）第 96 条第 1 項第 3 号のイからホまでに掲げる事由又は同項第 4 号に規定する事由が生じている貸出金であります。</p> <p>また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。</p> <p>2. 貸出金のうち、3 ヶ月以上延滞債権額は 466 百万円であります。</p> <p>なお、3 ヶ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から 3 月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>3. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は 138,629 百万円であります。</p> <p>なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び 3 ヶ月以上延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>4. 破綻先債権額、延滞債権額、3 ヶ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は 398,624 百万円であります。</p> <p>なお、上記 1.から 4.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。</p> <p>5. 為替決済等の取引の担保として、有価証券 122,928 百万円を差し入れております。</p> <p>また、動産不動産のうち保証金権利金は 416 百万円であります。</p> <p>6. 貸出金に係る限度貸付契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。この契約に係る融資未実行残高は、70,556 百万円であります。このうち、1 年以内に融資予定のものは 41,328 百万円であります。</p> <p>7. ヘッジ手段に係る損益又は評価差額は、純額で繰延ヘッジ損失として「その他資産」に含めて計上しております。なお、上記相殺前の繰延ヘッジ損失の総額は 180,672 百万円、繰延ヘッジ利益の総額は 8,870 百万円であります。</p> <p>8. 動産不動産の減価償却累計額 19,638 百万円</p>

( 連結損益計算書関係 )

前連結会計年度 自 平成 15 年 4 月 1 日 至 平成 16 年 3 月 31 日	当連結会計年度 自 平成 16 年 4 月 1 日 至 平成 17 年 3 月 31 日
1. その他の経常費用には、貸出金償却 3,836 百万円、貸出債権の売却に係る損失 2,070 百万円、株式等償却 589 百万円及び投資損失引当金繰入額 4,075 百万円を含んでおります。	1. その他の経常費用には、貸出金償却 14,268 百万円、貸出債権の売却に係る損失 607 百万円、金銭の信託運用損 957 百万円及び投資損失引当金繰入額 7,099 百万円を含んでおります。

( 連結キャッシュ・フロー計算書関係 )

前連結会計年度 自 平成 15 年 4 月 1 日 至 平成 16 年 3 月 31 日	当連結会計年度 自 平成 16 年 4 月 1 日 至 平成 17 年 3 月 31 日
現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 ( 単位：百万円 )	現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 ( 単位：百万円 )
平成 16 年 3 月 31 日現在	平成 17 年 3 月 31 日現在
現金預け金勘定 19,305	現金預け金勘定 20,556
財務代理人への信託金 53	定期性預け金等 2,000
現金及び現金同等物 19,251	財務代理人への信託金 127
	現金及び現金同等物 18,429

(リース取引関係)

前連結会計年度 自 平成 15年 4月 1日 至 平成 16年 3月 31日	当連結会計年度 自 平成 16年 4月 1日 至 平成 17年 3月 31日																																																												
<p>1. リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引</p> <p>・リース物件の取得価格相当額、減価償却累計額相当額及び年度末残高相当額</p> <p style="padding-left: 20px;">取得価格相当額</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr><td>動産</td><td style="text-align: right;">761 百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">204 百万円</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;">965 百万円</td></tr> </table> <p style="padding-left: 20px;">減価償却累計額相当額</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr><td>動産</td><td style="text-align: right;">367 百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">51 百万円</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;">418 百万円</td></tr> </table> <p style="padding-left: 20px;">年度末残高相当額</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr><td>動産</td><td style="text-align: right;">393 百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">153 百万円</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;">547 百万円</td></tr> </table> <p>・未経過リース料年度末残高相当額</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr><td>1 年内</td><td style="text-align: right;">216 百万円</td></tr> <tr><td>1 年超</td><td style="text-align: right;">335 百万円</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;">552 百万円</td></tr> </table> <p>・支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr><td>支払リース料</td><td style="text-align: right;">239 百万円</td></tr> <tr><td>減価償却費相当額</td><td style="text-align: right;">231 百万円</td></tr> <tr><td>支払利息相当額</td><td style="text-align: right;">7 百万円</td></tr> </table> <p>・減価償却費相当額の算定方法</p> <p style="padding-left: 20px;">リース期間を耐用年数とし、残存価格を零とする定額法によっております。</p> <p>・利息相当額の算定方法</p> <p style="padding-left: 20px;">リース料総額とリース物件の取得価格相当額との差額を利息相当額とし、各連結会計年度への配分方法については、利息法によっております。</p>	動産	761 百万円	その他	204 百万円	合計	965 百万円	動産	367 百万円	その他	51 百万円	合計	418 百万円	動産	393 百万円	その他	153 百万円	合計	547 百万円	1 年内	216 百万円	1 年超	335 百万円	合計	552 百万円	支払リース料	239 百万円	減価償却費相当額	231 百万円	支払利息相当額	7 百万円	<p>1. リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引</p> <p>・リース物件の取得価格相当額、減価償却累計額相当額及び年度末残高相当額</p> <p style="padding-left: 20px;">取得価格相当額</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr><td>動産</td><td style="text-align: right;">936 百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">230 百万円</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;">1,167 百万円</td></tr> </table> <p style="padding-left: 20px;">減価償却累計額相当額</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr><td>動産</td><td style="text-align: right;">428 百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">95 百万円</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;">524 百万円</td></tr> </table> <p style="padding-left: 20px;">年度末残高相当額</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr><td>動産</td><td style="text-align: right;">508 百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">134 百万円</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;">642 百万円</td></tr> </table> <p>・未経過リース料年度末残高相当額</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr><td>1 年内</td><td style="text-align: right;">244 百万円</td></tr> <tr><td>1 年超</td><td style="text-align: right;">415 百万円</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;">659 百万円</td></tr> </table> <p>・支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr><td>支払リース料</td><td style="text-align: right;">315 百万円</td></tr> <tr><td>減価償却費相当額</td><td style="text-align: right;">273 百万円</td></tr> <tr><td>支払利息相当額</td><td style="text-align: right;">53 百万円</td></tr> </table> <p>・減価償却費相当額の算定方法</p> <p style="padding-left: 20px;">リース期間を耐用年数とし、残存価格を零とする定額法によっております。</p> <p>・利息相当額の算定方法</p> <p style="padding-left: 20px;">リース料総額とリース物件の取得価格相当額との差額を利息相当額とし、各連結会計年度への配分方法については、利息法によっております。</p>	動産	936 百万円	その他	230 百万円	合計	1,167 百万円	動産	428 百万円	その他	95 百万円	合計	524 百万円	動産	508 百万円	その他	134 百万円	合計	642 百万円	1 年内	244 百万円	1 年超	415 百万円	合計	659 百万円	支払リース料	315 百万円	減価償却費相当額	273 百万円	支払利息相当額	53 百万円
動産	761 百万円																																																												
その他	204 百万円																																																												
合計	965 百万円																																																												
動産	367 百万円																																																												
その他	51 百万円																																																												
合計	418 百万円																																																												
動産	393 百万円																																																												
その他	153 百万円																																																												
合計	547 百万円																																																												
1 年内	216 百万円																																																												
1 年超	335 百万円																																																												
合計	552 百万円																																																												
支払リース料	239 百万円																																																												
減価償却費相当額	231 百万円																																																												
支払利息相当額	7 百万円																																																												
動産	936 百万円																																																												
その他	230 百万円																																																												
合計	1,167 百万円																																																												
動産	428 百万円																																																												
その他	95 百万円																																																												
合計	524 百万円																																																												
動産	508 百万円																																																												
その他	134 百万円																																																												
合計	642 百万円																																																												
1 年内	244 百万円																																																												
1 年超	415 百万円																																																												
合計	659 百万円																																																												
支払リース料	315 百万円																																																												
減価償却費相当額	273 百万円																																																												
支払利息相当額	53 百万円																																																												
<p>2. オペレーティング・リース取引</p> <p>・未経過リース料</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr><td>1 年内</td><td style="text-align: right;">-</td><td style="text-align: right;">百万円</td></tr> <tr><td>1 年超</td><td style="text-align: right;">-</td><td style="text-align: right;">百万円</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;">-</td><td style="text-align: right;">百万円</td></tr> </table>	1 年内	-	百万円	1 年超	-	百万円	合計	-	百万円	<p>2. オペレーティング・リース取引</p> <p>・未経過リース料</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr><td>1 年内</td><td style="text-align: right;">-</td><td style="text-align: right;">百万円</td></tr> <tr><td>1 年超</td><td style="text-align: right;">-</td><td style="text-align: right;">百万円</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;">-</td><td style="text-align: right;">百万円</td></tr> </table>	1 年内	-	百万円	1 年超	-	百万円	合計	-	百万円																																										
1 年内	-	百万円																																																											
1 年超	-	百万円																																																											
合計	-	百万円																																																											
1 年内	-	百万円																																																											
1 年超	-	百万円																																																											
合計	-	百万円																																																											

( 有価証券関係 )

「子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの」については、財務諸表における注記事項として記載しております。

前連結会計年度

1. 売買目的有価証券 (平成 16 年 3 月 31 日現在)

該当ありません。

2. 満期保有目的の債券で時価のあるもの (平成 16 年 3 月 31 日現在)

	連結貸借対 照表計上額 (百万円)	時 価 (百万円)	差 額 (百万円)	うち益 (百万円)	うち損 (百万円)
国債	-	-	-	-	-
地方債	-	-	-	-	-
短期社債	-	-	-	-	-
社債	60,100	61,018	918	938	19
その他	-	-	-	-	-
合計	60,100	61,018	918	938	19

(注) 1. 時価は、前連結会計年度末日における市場価格等に基づいております。

2. 「うち益」「うち損」はそれぞれ「差額」の内訳であります。

3. その他有価証券で時価のあるもの (平成 16 年 3 月 31 日現在)

	取得原価 (百万円)	連結貸借対 照表計上額 (百万円)	評価差額 (百万円)	うち益 (百万円)	うち損 (百万円)
株式	-	-	-	-	-
債券	181,420	181,498	78	99	20
国債	171,420	171,488	67	88	20
地方債	-	-	-	-	-
短期社債	-	-	-	-	-
社債	10,000	10,010	10	10	-
その他	-	-	-	-	-
合計	181,420	181,498	78	99	20

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、前連結会計年度末日における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。

2. 「うち益」「うち損」はそれぞれ「評価差額」の内訳であります。

4. 当連結会計年度中に売却した満期保有目的の債券(自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日)

該当ありません。

5. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日)

	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
その他有価証券	235	-	16

6. 時価のない有価証券の主な内容及び連結貸借対照表計上額(平成 16 年 3 月 31 日現在)

	金額 (百万円)
満期保有目的の債券 非上場社債	9,070
その他有価証券 非上場株式	176,012
非上場社債	140
その他	150

7. 保有目的を変更した有価証券

当連結会計年度中に、満期保有目的の債券 140 百万円の保有目的を発行体の信用リスク悪化の理由により変更し、その他有価証券に区分しております。この変更による影響はありません。

8. その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の償還予定額

(平成 16 年 3 月 31 日現在)

	1 年以内 (百万円)	1 年超 5 年以内 (百万円)	5 年超 10 年以内 (百万円)	10 年超 (百万円)
債券	179,968	70,340	500	-
国債	161,317	10,171	-	-
地方債	-	-	-	-
短期社債	-	-	-	-
社債	18,651	60,169	500	-
その他	150	-	-	-
合計	180,118	70,340	500	-

当連結会計年度

1. 売買目的有価証券 (平成 17 年 3 月 31 日現在)

該当ありません。

2. 満期保有目的の債券で時価のあるもの (平成 17 年 3 月 31 日現在)

	連結貸借対 照表計上額 (百万円)	時 価 (百万円)	差 額 (百万円)	うち益 (百万円)	うち損 (百万円)
国債	-	-	-	-	-
地方債	-	-	-	-	-
短期社債	-	-	-	-	-
社債	48,000	48,609	609	609	-
その他	-	-	-	-	-
合計	48,000	48,609	609	609	-

(注) 1. 時価は、当連結会計年度末日における市場価格等に基づいております。

2. 「うち益」「うち損」はそれぞれ「差額」の内訳であります。

## 3. その他有価証券で時価のあるもの（平成 17 年 3 月 31 日現在）

	取得原価 (百万円)	連結貸借対 照表計上額 (百万円)	評価差額 (百万円)	うち益 (百万円)	うち損 (百万円)
株式	175	579	403	403	-
債券	161,991	162,927	935	946	11
国債	151,991	152,925	933	944	11
地方債	-	-	-	-	-
短期社債	-	-	-	-	-
社債	10,000	10,002	2	2	-
その他	-	-	-	-	-
合計	162,167	163,506	1,339	1,350	11

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、当連結会計年度末日における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。

2. 「うち益」「うち損」はそれぞれ「評価差額」の内訳であります。

4. 当連結会計年度中に売却した満期保有目的の債券(自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)  
該当ありません。

5. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)

	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
その他有価証券	4,071	3,798	-

6. 時価のない有価証券の主な内容及び連結貸借対照表計上額(平成 17 年 3 月 31 日現在)

	金額 (百万円)
満期保有目的の債券 非上場社債	5,163
その他有価証券 非上場株式	127,659
非上場社債	50
その他	50,460

7. 保有目的を変更した有価証券  
該当ありません。



8. その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の償還予定額

(平成17年3月31日現在)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
債券	80,760	81,156	54,221	-
国債	50,239	51,094	51,591	-
地方債	-	-	-	-
短期社債	-	-	-	-
社債	30,521	30,062	2,630	-
その他	-	-	-	-
合計	80,760	81,156	54,221	-

(金銭の信託関係)

前連結会計年度

1. 運用目的の金銭の信託(平成16年3月31日現在)

該当ありません。

2. 満期保有目的の金銭の信託(平成16年3月31日現在)

該当ありません。

3. その他の金銭の信託(運用目的及び満期保有目的以外)(平成16年3月31日現在)

	取得原価 (百万円)	連結貸借対 照表計上額 (百万円)	評価差額 (百万円)	うち益 (百万円)	うち損 (百万円)
その他の金 銭の信託	4,910	4,893	-	-	-

(注)「うち益」「うち損」はそれぞれ「評価差額」の内訳であります。

当連結会計年度

1. 運用目的の金銭の信託(平成17年3月31日現在)

該当ありません。

2. 満期保有目的の金銭の信託(平成17年3月31日現在)

該当ありません。

3. その他の金銭の信託(運用目的及び満期保有目的以外)(平成17年3月31日現在)

	取得原価 (百万円)	連結貸借対 照表計上額 (百万円)	評価差額 (百万円)	うち益 (百万円)	うち損 (百万円)
その他の金 銭の信託	5,061	4,136	-	-	-

(注)「うち益」「うち損」はそれぞれ「評価差額」の内訳であります。

## ( その他有価証券評価差額金 )

前連結会計年度

その他有価証券評価差額金 (平成 16 年 3 月 31 日現在)

連結貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりであります。

	金額 (百万円)
評価差額	18,956
その他有価証券	18,956
その他の金銭の信託	-
(+) 繰延税金資産 (又は (-) 繰延税金負債)	-
その他有価証券評価差額金 (持分相当額調整前)	18,956
(-) 少数株主持分相当額	-
(+) 持分法適用会社が所有するその他有価証券に係る評価差額金のうち親会社持分相当額	-
その他有価証券評価差額金	18,956

(注) その他有価証券評価差額金には、その他資産に計上している投資事業組合等に対する出資持分の時価評価に係る評価差額 18,878 百万円が含まれております。

当連結会計年度

その他有価証券評価差額金 (平成 17 年 3 月 31 日現在)

連結貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりであります。

	金額 (百万円)
評価差額	7,355
その他有価証券	7,355
その他の金銭の信託	-
(+) 繰延税金資産 (又は (-) 繰延税金負債)	297
その他有価証券評価差額金 (持分相当額調整前)	7,057
(-) 少数株主持分相当額	142
(+) 持分法適用会社が所有するその他有価証券に係る評価差額金のうち親会社持分相当額	-
その他有価証券評価差額金	6,915

(注) その他有価証券評価差額金には、時価のない外貨建その他有価証券に係る為替換算差額が含まれております。

## ( デリバティブ取引関係 )

前連結会計年度

## 1. 取引の状況に関する事項

## (1) 取引の内容

利用しているデリバティブ取引は、金利関連では金利スワップ取引、通貨関連では通貨スワップ取引、信用関連ではクレジットデリバティブ取引であります。

## (2) 取引に対する取組方針

金利スワップ取引及び通貨スワップ取引は、将来の金利・為替の変動に伴うリスクの

回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針であります。クレジットデリバティブ取引については債務保証業務の一環として一定のリスクの範囲内で取引を行っております。

### (3) 取引の利用目的

利益の安定化を図るべく、金利スワップ取引は資金調達に係る将来の金利変動リスクを回避する目的で、また、通貨スワップ取引は外貨建融資及び外貨建債券発行における為替変動リスクを回避する目的で利用しております。クレジットデリバティブ取引は債務保証業務の一環として利用しております。

なお、金利スワップ取引及び通貨スワップ取引の会計処理にはヘッジ会計を採用しております。

#### ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。また、通貨スワップについては、為替変動リスクのヘッジについて振当処理の要件を充たしているため、振当処理を採用しております。

#### ヘッジ手段とヘッジ対象

- a. ヘッジ手段...金利スワップ  
ヘッジ対象...債券及び借入金
- b. ヘッジ手段...通貨スワップ  
ヘッジ対象...外貨建金銭債権・外貨建債券

#### ヘッジ方針

金利リスク又は為替変動リスクをヘッジするため、対象債権債務の範囲内でヘッジを行っております。

#### ヘッジの有効性評価の方法

リスク減殺効果を定期的に検証し、ヘッジの有効性を再評価しております。

### (4) 取引に係るリスクの内容

デリバティブ取引に関する主なリスクには市場リスク及び信用リスクがあります。

市場リスクとは、市場価格の変動によって将来の収益が変動するリスクであります。

信用リスクとは、取引の相手方が倒産等により契約を履行できなくなり損失を被るリスクであります。

ヘッジ目的のデリバティブ取引は、市場リスクにつきましてはヘッジ対象の市場リスクと相殺されます。信用リスクにつきましては、契約先を信用度の高い金融機関に限定しており、取引の再構築コスト及び取組先の信用力を常時把握するとともに、取引を複数機関に分散させております。なお、クレジットデリバティブ取引は取引対象物の信用リスクを有しております。

### (5) 取引に係るリスク管理体制

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度額を定めた運用管理基準に従い資金担当部門が決裁担当者の承認を得て行っております。

また、デリバティブ取引の総量、リスク状況、時価評価額、カウンターパーティーの信用リスクの状況について、定期的に各担当理事に報告しております。

## 2. 取引の時価等に関する事項

## (1) 金利関連取引 (平成16年3月31日現在)

区分	種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超のもの (百万円)	時価(百万円)	評価損益 (百万円)
取引所	金利先物				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	金利オプション				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
店頭	金利先渡契約				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	金利スワップ				
	受取固定・支払変動	571,000	571,000	5,409	5,409
	受取変動・支払固定	571,000	571,000	1,130	1,130
	受取変動・支払変動	-	-	-	-
	金利オプション				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	その他				
売建	-	-	-	-	
買建	-	-	-	-	
	合計	1,142,000	1,142,000	6,540	6,540

- (注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。なお、ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。
2. 時価の算定  
店頭取引につきましては、割引現在価値等により算定しております。

(2) 通貨関連取引 (平成16年3月31日現在)

	種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超のもの (百万円)	時価(百万円)	評価損益 (百万円)
取引所	通貨先物				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	通貨オプション				
	売建	-	-	-	-
買建	-	-	-	-	
店頭	通貨スワップ	-	-	-	-
	為替予約				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	通貨オプション				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	その他				
売建	-	-	-	-	
買建	-	-	-	-	
	合計	-	-	-	-

(注) ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(3) 株式関連取引 (平成16年3月31日現在)

該当ありません。

(4) 債券関連取引 (平成16年3月31日現在)

該当ありません。

(5) 商品関連取引 (平成16年3月31日現在)

該当ありません。

(6) クレジットデリバティブ取引 (平成16年3月31日現在)

	種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超のもの (百万円)	時価(百万円)	評価損益 (百万円)
店頭	クレジット・デフォルト・スワップ				
	売建	2,129,857	2,129,857	456	456
	買建	2,113,457	2,113,457	51	51
	合計			507	507

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

取引先金融機関から提示された価格によっております。

3. 「売建」は信用リスクの引受取引、「買建」は信用リスクの引渡取引であります。

## 当連結会計年度

## 1. 取引の状況に関する事項

## (1) 取引の内容

利用しているデリバティブ取引は、金利関連では金利スワップ取引、通貨関連では通貨スワップ取引、信用関連ではクレジットデリバティブ取引であります。

## (2) 取引に対する取組方針

金利スワップ取引及び通貨スワップ取引は、将来の金利・為替の変動に伴うリスクの回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針であります。クレジットデリバティブ取引については債務保証業務の一環として一定のリスクの範囲内で取引を行っております。

## (3) 取引の利用目的

利益の安定化を図るべく、金利スワップ取引は資金調達に係る将来の金利変動リスクを回避する目的で、また、通貨スワップ取引は外貨建融資及び外貨建債券発行における為替変動リスクを回避する目的で利用しております。クレジットデリバティブ取引は債務保証業務の一環として利用しております。

なお、金利スワップ取引及び通貨スワップ取引の会計処理にはヘッジ会計を採用しております。

## ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。また、通貨スワップについては、為替変動リスクのヘッジについて振当処理の要件を充たしているため、振当処理を採用しております。

## ヘッジ手段とヘッジ対象

- a. ヘッジ手段...金利スワップ  
ヘッジ対象...債券及び借入金
- b. ヘッジ手段...通貨スワップ  
ヘッジ対象...外貨建金銭債権・外貨建債券

## ヘッジ方針

金利リスク又は為替変動リスクをヘッジするため、対象債権債務の範囲内でヘッジを行っております。

## ヘッジの有効性評価の方法

リスク減殺効果を定期的に検証し、ヘッジの有効性を再評価しております。

## (4) 取引に係るリスクの内容

デリバティブ取引に関する主なリスクには市場リスク及び信用リスクがあります。

市場リスクとは、市場価格の変動によって将来の収益が変動するリスクであります。

信用リスクとは、取引の相手方が倒産等により契約を履行できなくなり損失を被るリスクであります。

ヘッジ目的のデリバティブ取引は、市場リスクにつきましてはヘッジ対象の市場リスクと相殺されます。信用リスクにつきましては、契約先を信用度の高い金融機関に限定しており、取引の再構築コスト及び取組先の信用力を常時把握するとともに、取引を複数機関に分散させております。なお、クレジットデリバティブ取引は取引対象物の信用リスクを有しております。

## (5) 取引に係るリスク管理体制

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度額を定めた運用管理基準に従い資金担当部門が決裁担当者の承認を得て行っております。

また、デリバティブ取引の総量、リスク状況、時価評価額、カウンターパーティーの信用リスクの状況について、定期的に各担当理事に報告しております。

(6) 取引の時価等に関する事項についての補足説明

「契約額等」は、デリバティブ取引における名目上の契約額または計算上想定している元本であり、その金額自体がデリバティブ取引のリスクを意味するものではありません。

2. 取引の時価等に関する事項

(1) 金利関連取引 (平成17年3月31日現在)

区分	種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超のもの (百万円)	時価(百万円)	評価損益 (百万円)
取引所	金利先物				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	金利オプション				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
店頭	金利先渡契約				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	金利スワップ				
	受取固定・支払変動	1,163,000	1,163,000	10,837	10,837
	受取変動・支払固定	1,163,000	1,163,000	17,294	17,294
	受取変動・支払変動	-	-	-	-
	金利オプション				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	その他				
	売建	-	-	-	-
買建	-	-	-	-	
	合計	2,326,000	2,326,000	6,456	6,456

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。なお、ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

2. 時価の算定

店頭取引につきましては、割引現在価値等により算定しております。

## (2) 通貨関連取引 (平成17年3月31日現在)

	種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超のもの (百万円)	時価(百万円)	評価損益 (百万円)
取引所	通貨先物				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	通貨オプション				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
店頭	通貨スワップ	-	-	-	-
	為替予約				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	通貨オプション				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	その他				
売建	-	-	-	-	
買建	-	-	-	-	
	合 計	-	-	-	-

(注) ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

## (3) 株式関連取引 (平成17年3月31日現在)

該当ありません。

## (4) 債券関連取引 (平成17年3月31日現在)

該当ありません。

## (5) 商品関連取引 (平成17年3月31日現在)

該当ありません。

## (6) クレジットデリバティブ取引 (平成17年3月31日現在)

	種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超のもの (百万円)	時価(百万円)	評価損益 (百万円)
店頭	クレジット・フォルト・スワップ				
	売建	1,853,901	-	274	274
	買建	1,837,501	-	162	162
	合 計			112	112

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

## 2. 時価の算定

取引先金融機関から提示された価格によっております。

## 3. 「売建」は信用リスクの引受取引、「買建」は信用リスクの引渡取引であります。



(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当行は、確定給付型の制度として、厚生年金基金制度及び退職一時金制度を設けております。

2. 退職給付債務に関する事項

区 分		前連結会計年度末 (平成16年3月31日)	当連結会計年度末 (平成17年3月31日)
		金額(百万円)	金額(百万円)
退職給付債務	(A)	43,396	44,121
年金資産	(B)	11,224	11,903
未積立退職給付債務	(C)=(A)+(B)	32,172	32,218
会計基準変更時差異の未処理額	(D)	-	-
未認識数理計算上の差異	(E)	-	-
未認識過去勤務債務	(F)	-	-
連結貸借対照表計上額純額	(G)=(C)+(D)+(E)+(F)	32,172	32,218
前払年金費用	(H)	-	-
退職給付引当金	(G) - (H)	32,172	32,218

(注) 厚生年金基金の代行部分を含めて記載しております。

3. 退職給付費用に関する事項

区 分		前連結会計年度末 (平成16年3月31日)	当連結会計年度末 (平成17年3月31日)
		金額(百万円)	金額(百万円)
勤務費用		1,525	1,506
利息費用		838	865
期待運用収益		91	112
過去勤務債務の費用処理額		-	-
数理計算上の差異の費用処理額		807	121
会計基準変更時差異の費用処理額		-	-
その他(臨時に支払った割増退職金等)		-	-
退職給付費用		1,465	2,380

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

区 分	前連結会計年度 (平成16年3月31日)	当連結会計年度 (平成17年3月31日)
(1) 割引率	2.0%	2.0%
(2) 期待運用収益率	1.0%	1.0%
(3) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	同 左
(4) 数理計算上の差異の処理年数	発生年度に一括償却	同 左

( 税効果会計関係 )

前連結会計年度 自 平成 15 年 4 月 1 日 至 平成 16 年 3 月 31 日	当連結会計年度 自 平成 16 年 4 月 1 日 至 平成 17 年 3 月 31 日
繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳	繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳
繰延税金資産	繰延税金資産
未払事業税	未払事業税
0 百万円	60 百万円
繰延税金資産小計	繰延税金資産小計
0	227
評価性引当額	評価性引当額
<u>0</u>	<u>227</u>
繰延税金資産合計	繰延税金資産合計
-	0
	繰延税金負債
	その他有価証券評価差額金
	<u>297</u>
	繰延税金負債合計
	<u>297</u>
	繰延税金資産（負債）の純額
	<u>297 百万円</u>

【セグメント情報】

1. 事業の種類別セグメント情報

前連結会計年度（自 平成 15 年 4 月 1 日 至 平成 16 年 3 月 31 日）及び

当連結会計年度（自 平成 16 年 4 月 1 日 至 平成 17 年 3 月 31 日）

連結会社は銀行業以外に投資・組合運用事業等の事業を営んでおりますが、その事業の全セグメントに占める割合が僅少であるため、事業の種類別セグメント情報は記載しておりません。

2. 所在地別セグメント情報

前連結会計年度（自 平成 15 年 4 月 1 日 至 平成 16 年 3 月 31 日）及び

当連結会計年度（自 平成 16 年 4 月 1 日 至 平成 17 年 3 月 31 日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため該当事項はありません。

3. 国際業務経常収益

前連結会計年度（自 平成 15 年 4 月 1 日 至 平成 16 年 3 月 31 日）及び

当連結会計年度（自 平成 16 年 4 月 1 日 至 平成 17 年 3 月 31 日）

国際業務経常収益が連結経常収支の 10%未満のため、国際業務経常収益の記載を省略しております。

( 関連当事者との取引 )

前連結会計年度（自 平成 15 年 4 月 1 日 至 平成 16 年 3 月 31 日）

関連当事者との取引について記載すべき重要なものではありません。

当連結会計年度（自 平成 16 年 4 月 1 日 至 平成 17 年 3 月 31 日）

関連当事者との取引について記載すべき重要なものではありません。

(重要な後発事象)

前連結会計年度(自 平成 15 年 4 月 1 日 至 平成 16 年 3 月 31 日)  
該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成 16 年 4 月 1 日 至 平成 17 年 3 月 31 日)  
該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【債券明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限	摘要
当行	185回～186回 政府保証債 (国内債)	平成8年2月26日～ 平成8年11月25日	20,000	20,000 [10,000]	2.90 ～3.10	一般 担保	平成18年2月24日 ～ 平成18年11月24日	(注)2
	1回～9回 政府保証債 (国内債)	平成12年8月25日～ 平成17年2月25日	330,000	380,000	0.80 ～1.90	一般 担保	平成22年8月25日 ～ 平成27年2月25日	
	63,65,67次 政府保証債 (外国債)	平成7年1月31日～ 平成10年9月4日	114,225 (250,000千£) [39,225]	75,000	1.81 ～2.87	一般 担保	平成18年12月20日 ～ 平成40年9月4日	(注)1
	5,9次 政府保証債 (外国債)	平成7年1月10日～ 平成10年3月10日	25,510 (190,000千SFr) (150,000千DM) [25,510]	-	-	一般 担保	-	(注)2
	1次～8次 政府保証債 (外国債)	平成11年11月30日 ～ 平成16年6月11日	513,621 (750,000千\$) (750,000千EUR)	588,621 (750,000千\$) (750,000千EUR)	1.05 ～6.87	一般 担保	平成22年6月21日 ～ 平成35年6月20日	
	163回～211回 政府引受債	平成6年5月20日～ 平成10年12月21日	237,250 [86,070]	151,180 [41,770]	1.10 ～3.60	一般 担保	平成17年5月20日 ～ 平成20年12月19日	(注)2
	1回～18回 財投機関債	平成13年9月25日～ 平成17年2月1日	540,000	780,000	0.40 ～1.83	一般 担保	平成18年9月20日 ～ 平成30年9月20日	
合計	-	-	1,780,606	1,994,801	-	-	-	-

- (注) 1. 旧日本開発銀行において発行された政府保証債であります。  
 2. 旧北海道東北開発公庫において発行された政府保証債及び政府引受債であります。  
 3. 「前期末残高」及び「当期末残高」欄の( )書きは外貨建債券の金額であります。  
 4. 「当期末残高」欄の[ ]書きは、1年以内に償還が予定されている金額であります。  
 5. 連結決算日後5年以内における償還予定額は以下のとおりであります。

	1年以内	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内
金額(百万円)	51,770	196,600	183,250	169,560	90,000

【借入金等明細表】

区分	前期末残高(百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率	返済期限
借入金	11,403,450	10,214,800	2.27%	-
借入金	11,403,450	10,214,800	2.27%	平成17年5月～平成36年10月

- (注) 1. 「平均利率」は、期末日現在の「利率」及び「当期末残高」により算出(加重平均)しております。  
 2. 借入金の決算日後5年以内における返済額は次のとおりであります。

	1年以内	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内
借入金(百万円)	1,435,258	1,411,833	1,347,121	1,192,443	989,653

(2)【その他】

該当事項はありません。

## 2【財務諸表等（企業会計基準準拠）】

1. 当行の財務諸表（企業会計基準準拠）は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和 38 年大蔵省令第 59 号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「長期信用銀行法施行規則」（昭和 57 年大蔵省令第 13 号）に準拠しております。

ただし、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成 16 年 1 月 30 日内閣府令第 5 号）附則第 2 項のただし書きにより、改正前の財務諸表等規則及び長期信用銀行法施行規則に基づき作成しております。

2. 前事業年度（自 平成 15 年 4 月 1 日 至 平成 16 年 3 月 31 日）及び当事業年度（自 平成 16 年 4 月 1 日 至 平成 17 年 3 月 31 日）の財務諸表は、証券取引法第 193 条の 2 の規定に基づく監査に準じて、中央青山監査法人の監査証明を受けております。

その監査報告書は、財務諸表の直前に掲げております。

## 独立監査人の監査報告書

平成16年6月25日

日本政策投資銀行  
総裁 小村 武殿

### 中央青山監査法人

代表社員  
関与社員 公認会計士 片山 英木

関与社員 公認会計士 井上 雅彦

当監査法人は、貴行の委嘱に基づき、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査に準じて、「経理の状況」のうち「財務諸表等（企業会計基準準拠）」に掲げられている日本政策投資銀行の平成15年4月1日から平成16年3月31日までの第5期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、利益処分計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本政策投資銀行の平成16年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

日本政策投資銀行と当監査法人又は関与社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

( ) 上記の原本は当行が別途保管しております。

## 独立監査人の監査報告書

平成17年6月24日

日本政策投資銀行  
総裁 小村 武 殿

### 中央青山監査法人

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 片山 英 木

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 井上 雅 彦

当監査法人は、貴行の委嘱に基づき、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査に準じて、「経理の状況」のうち「財務諸表等（企業会計基準準拠）」に掲げられている日本政策投資銀行の平成16年4月1日から平成17年3月31日までの第6期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、利益処分計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本政策投資銀行の平成17年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

日本政策投資銀行と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

( ) 上記の原本は当行が別途保管しております。

(1) 【財務諸表等】

【貸借対照表】

(資産の部) (金額単位：百万円)

科目	期別	前事業年度 (平成16年3月31日)		当事業年度 (平成17年3月31日)	
		金額	構成比	金額	構成比
貸出金付	2,3,4,5,7	14,785,724	96.47	13,860,747	95.82
証券貸付		14,785,724		13,860,747	
有価証券	1,6	426,981	2.79	391,172	2.70
国債		171,488		152,925	
社債		79,320		60,816	
株の他の証券		176,021		131,670	
その他		150		45,760	
金銭の信託		4,893	0.03	4,136	0.03
買現先勘定		77,166	0.50	107,999	0.75
現金預け		19,298	0.13	18,189	0.12
現預		2		2	
その他		19,296		18,186	
その他		304,750	1.99	245,396	1.70
前払費用		54		92	
未収		67,967		59,168	
金融派生商品		923		5,565	
繰延ヘッジ損失	8	183,922		171,801	
その他の資産		51,881		8,767	
不動産	6,9	38,081	0.25	37,601	0.26
土地建物		37,553		37,216	
建設仮払		141		-	
保証金		386		385	
債券繰延資産		2,249	0.01	2,594	0.02
債券発行差金		2,249		2,594	
支払承諾見返		76,812	0.50	98,757	0.68
貸倒引当金		395,881	2.58	280,284	1.94
投資損失引当金		13,903	0.09	20,508	0.14
資産の部合計		15,326,174	100.00	14,465,803	100.00

(負債及び資本の部) (金額単位：百万円)

科目	期別	前事業年度 (平成16年3月31日)		当事業年度 (平成17年3月31日)	
		金額	構成比	金額	構成比
債券発行高		1,780,606	11.62	1,994,801	13.79
債券		1,780,606		1,994,801	
借入金		11,403,450	74.41	10,214,800	70.62
借入		11,403,450		10,214,800	
その他		277,826	1.81	248,497	1.72
未払費用		49,963		36,654	
前受		31,714		18,692	
従業員預り金		153		124	
金融派生商品		187,127		181,951	
その他の負債		8,867		11,073	
賞与引当金		1,659	0.01	1,651	0.01
退職給付引当金		32,172	0.21	32,218	0.22
支払承諾		76,812	0.50	98,757	0.68
負債の部合計		13,572,527	88.56	12,590,725	87.04
資本		1,194,286	7.79	1,215,461	8.40
利益剰余金		540,403	3.53	652,953	4.51
準備金	10	1,000,908		1,027,021	
当期未処理損失		460,504		374,067	
その他有価証券評価差額金		18,956	0.12	6,662	0.05
資本の部合計		1,753,646	11.44	1,875,077	12.96
負債及び資本の部合計		15,326,174	100.00	14,465,803	100.00



【損益計算書】

(金額単位：百万円)

科目	期 別		前事業年度		当事業年度	
	自 平成15年4月 1日 至 平成16年3月31日	金 額	自 平成16年4月 1日 至 平成17年3月31日	金 額	百分比	百分比
経 常 収 益	488,837	100.00	431,635	100.00		
資 金 運 用 収 益	485,098		426,264			
貸 出 金 利 息	483,195		424,615			
有 価 証 券 利 息 配 当 金	1,890		1,642			
買 現 先 利 息	12		5			
預 け 金 利 息	0		0			
そ の 他 の 受 入 利 息	0		0			
役 務 取 引 等 収 益	2,757		2,211			
そ の 他 の 役 務 収 益	2,757		2,211			
そ の 他 業 務 収 益	-		4			
外 国 為 替 売 買 益	-		4			
そ の 他 経 常 収 益	981		3,154			
株 式 等 売 却 益	31		257			
金 銭 の 信 託 運 用 益	149		110			
そ の 他 の 経 常 収 益	801		2,786			
経 常 費 用	414,661	84.83	371,928	86.17		
資 金 調 達 費 用	373,924		317,814			
債 券 利 息	31,615		31,466			
借 用 金 利 息	329,073		271,583			
金 利 スワップ 支 払 利 息	13,234		14,764			
そ の 他 の 支 払 利 息	1		0			
役 務 取 引 等 費 用	21		57			
支 払 為 替 手 数 料	5		5			
そ の 他 の 役 務 費 用	15		51			
そ の 他 業 務 費 用	2,466		2,737			
債 券 発 行 費	1,201		881			
外 国 為 替 売 買 損	1		-			
金 融 派 生 商 品 費 用	871		1,536			
そ の 他 の 業 務 費 用	392		319			
営 業 経 費	26,766		26,905			
そ の 他 経 常 費 用	11,482		24,413			
投 資 損 失 引 当 金 繰 入 額	4,075		6,620			
貸 出 金 償 却	3,836		14,268			
株 式 等 売 却 損	16		7			
株 式 等 償 却	589		92			
金 銭 の 信 託 運 用 損	1		957			
そ の 他 の 経 常 費 用	2,963		2,466			
経 常 利 益	74,176	15.17	59,707	13.83		
特 別 利 益	40,052	8.19	52,877	12.25		
動 産 不 動 産 処 分 益	217		14			
償 却 債 権 取 立 益	2,048		1,864			
貸 倒 引 当 金 戻 入 益	37,787		50,998			
特 別 損 失	242	0.05	35	0.01		
動 産 不 動 産 処 分 損	242		35			
当 期 純 利 益	113,986	23.31	112,550	26.07		
前 期 繰 越 損 失	574,490		486,617			
当 期 未 処 理 損 失	460,504		374,067			

【利益処分計算書】

(金額単位：百万円)

科目	期別	前事業年度	当事業年度
		金額	金額
当期未処理損失		460,504	374,067
準備金積立額	1	26,113	41,896
国庫納付金	2	-	10,636
次期繰越損失	3	486,617	426,600

重要な会計方針

	前事業年度 自 平成 15 年 4 月 1 日 至 平成 16 年 3 月 31 日	当事業年度 自 平成 16 年 4 月 1 日 至 平成 17 年 3 月 31 日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、子会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券のうち時価のあるものについては、期末日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）、時価のないものについては、移動平均法による原価法又は償却原価法により行っております。</p> <p>なお、その他有価証券の評価差額については、全部資本直入法により処理しております。</p>	<p>有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、子会社株式及び関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券のうち時価のあるものについては、期末日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）、時価のないものについては、移動平均法による原価法又は償却原価法により行っております。また、投資事業組合等への出資金については組合等の事業年度に係る財務諸表及び中間会計期間に係る中間財務諸表に基づいて、組合等の損益のうち持分相当額を純額で計上しております。</p> <p>なお、その他有価証券の評価差額については、全部資本直入法により処理しております。</p>
2. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法	<p>デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。</p>	<p>同 左</p>
3. 固定資産の減価償却の方法	<p>動産不動産 動産不動産は、定率法（ただし建物（建物付属設備を除く。）については定額法）を採用しております。</p> <p>なお、主な耐用年数は次のとおりであります。</p> <p>建物：22 年～50 年 動産：3 年～20 年</p>	<p>同 左</p>
4. 繰延資産の処理方法	<p>(1) 債券発行差金は、償還期限までの期間に対応して償却しております。</p> <p>(2) 債券発行費は、発生した期に全額費用として処理しております。</p>	<p>同 左</p>
5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準	<p>外貨建の資産・負債については、決算日の為替相場による円換算額を付しております。</p>	<p>同 左</p>
6. 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。</p> <p>破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿簿額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下「破綻懸念先」という。）に対する債権のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができない債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要</p>	<p>(1) 貸倒引当金 予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。</p> <p>破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿簿額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下「破綻懸念先」という。）に対する債権のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができない債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要</p>

	前事業年度 自 平成 15年 4月 1日 至 平成 16年 3月 31日	当事業年度 自 平成 16年 4月 1日 至 平成 17年 3月 31日
	<p>と認められる額を引き当てております。破綻懸念先及び今後の管理に注意を要する債務者に対する債権のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを当初の約定利率で割り引いた金額と債権の帳簿価額との差額を引き当てております。上記以外の債権については、当行の平均的な融資期間を勘案した過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。</p> <p>すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、投融資営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した査定部署が第二次査定を実施しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は 55,184 百万円であります。</p>	<p>と認められる額を引き当てております。破綻懸念先及び今後の管理に注意を要する債務者に対する債権のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを当初の約定利率で割り引いた金額と債権の帳簿価額との差額を引き当てております。上記以外の債権については、当行の平均的な融資期間を勘案した過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。</p> <p>すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、投融資営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した査定部署が第二次査定を実施しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は 104,845 百万円であります。</p>
	(2) 投資損失引当金 時価のない株式に対し、将来発生する可能性のある損失を見積もり、必要と認められる額を計上しております。	(2) 投資損失引当金 同 左
	(3) 賞与引当金 賞与引当金は、従業員への賞与の支払に備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当期に帰属する額を計上しております。また、賞与引当金には、役員に対するものが含まれております。	(3) 賞与引当金 同 左
	(4) 退職給付引当金 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。また、数理計算上の差異の費用処理方法は以下のとおりであります。 数理計算上の差異：発生年度において全額費用処理 また、退職給付引当金には、役員に対するものが含まれております。	(4) 退職給付引当金 同 左
7. リース取引の処理方法	リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております。	同 左
8. ヘッジ会計の方法	ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理を採用しております。また、通貨スワップについては、為替変動リスクのヘッジについて振当処理の要件を充たしているため、振当処理を採用しております。 ヘッジ手段とヘッジ対象 a. ヘッジ手段...金利スワップ ヘッジ対象...債券及び借入金	同 左

	前事業年度 自 平成 15年 4月 1日 至 平成 16年 3月 31日	当事業年度 自 平成 16年 4月 1日 至 平成 17年 3月 31日
	<p>b. ヘッジ手段...通貨スワップ ヘッジ対象...外貨建金銭債権・外貨建債券</p> <p>ヘッジ方針 金利リスク又は為替変動リスクをヘッジするため、対象債権債務の範囲内でヘッジを行っております。</p> <p>ヘッジの有効性評価の方法 リスク減殺効果を定期的に検証し、ヘッジの有効性を再評価しております。</p>	同 左
9. 消費税等の会計処理	消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。	同 左
10. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	財務諸表等規則及び長期信用銀行法施行規則の改正により、当事業年度における貸借対照表の資本の額については、改正後の財務諸表等規則及び長期信用銀行法施行規則により作成しております。	

表示方法の変更

前事業年度 自 平成 15年 4月 1日 至 平成 16年 3月 31日	当事業年度 自 平成 16年 4月 1日 至 平成 17年 3月 31日
<p>( 損益計算書関係 )</p> <p>債券発行差金の償却額は、従来、「債券発行差金償却」として区分掲記していましたが、「長期信用銀行法施行規則の一部を改正する内閣府令」(平成 16 年内閣府令第 41 号)により、長期信用銀行法施行規則別紙様式が改正されたことに伴い、当事業年度からは「債券利息」に含めて表示しております。</p>	<p>( 貸借対照表関係 )</p> <p>従来、投資事業有限責任組合並びに民法上の組合及び匿名組合のうち投資事業有限責任組合に類するもの出資持分は、「その他資産」に含めて表示していましたが、「証券取引法等の一部を改正する法律」(平成 16 年 6 月 9 日法律第 97 号)により当該出資持分が証券取引法上の有価証券と定義されたことに伴い、当事業年度から「有価証券」に含めて表示しております。この変更により「その他資産」は 45,759 百万円減少し、「有価証券」は同額増加しております。</p>

## 注 記 事 項

## (貸借対照表関係)

前事業年度 (平成 16 年 3 月 31 日)	当事業年度 (平成 17 年 3 月 31 日)
<p>1. 子会社の株式総額 10 百万円</p> <p>2. 貸出金のうち、破綻先債権額は 23,705 百万円、延滞債権額は 271,472 百万円であります。 なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和 40 年政令第 97 号)第 96 条第 1 項第 3 号のイからホまでに掲げる事由又は同項第 4 号に規定する事由が生じている貸出金であります。 また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。</p> <p>3. 貸出金のうち、3 ヶ月以上延滞債権額は 270 百万円であります。 なお、3 ヶ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から 3 月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>4. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は 193,210 百万円であります。 なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び 3 ヶ月以上延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>5. 破綻先債権額、延滞債権額、3 ヶ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は 488,658 百万円であります。 なお、上記 2.から 5.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。</p> <p>6. 為替決済等の取引の担保として、有価証券 121,693 百万円を差し入れております。 また、動産不動産のうち保証金権利金は 386 百万円であります。</p> <p>7. 貸出金に係る限度貸付契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。この契約に係る融資未実行残高は、90,985 百万円であります。このうち、1 年以内に融資予定のものは 49,517 百万円であります。</p> <p>8. ヘッジ手段に係る損益又は評価差額は、純額で「繰延ヘッジ損失」として計上しております。なお、上記相殺前の繰延ヘッジ損失の総額は 187,627 百万円、繰延ヘッジ利益の総額は 3,704 百万円であります。</p> <p>9. 動産不動産の減価償却累計額 19,059 百万円</p> <p>10. 当行における準備金は、日本政策投資銀行法(平成 11 年法律第 73 号)第 41 条第 1 項の規定に基づ</p>	<p>1. 子会社の株式総額 7,610 百万円</p> <p>2. 貸出金のうち、破綻先債権額は 25,762 百万円、延滞債権額は 233,765 百万円であります。 なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和 40 年政令第 97 号)第 96 条第 1 項第 3 号のイからホまでに掲げる事由又は同項第 4 号に規定する事由が生じている貸出金であります。 また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。</p> <p>3. 貸出金のうち、3 ヶ月以上延滞債権額は 466 百万円であります。 なお、3 ヶ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から 3 月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>4. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は 138,629 百万円であります。 なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び 3 ヶ月以上延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>5. 破綻先債権額、延滞債権額、3 ヶ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は 398,624 百万円であります。 なお、上記 2.から 5.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。</p> <p>6. 為替決済等の取引の担保として、有価証券 122,928 百万円を差し入れております。 また、動産不動産のうち保証金権利金は 385 百万円であります。</p> <p>7. 貸出金に係る限度貸付契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。この契約に係る融資未実行残高は、70,556 百万円であります。このうち、1 年以内に融資予定のものは 41,328 百万円であります。</p> <p>8. ヘッジ手段に係る損益又は評価差額は、純額で「繰延ヘッジ損失」として計上しております。なお、上記相殺前の繰延ヘッジ損失の総額は 180,672 百万円、繰延ヘッジ利益の総額は 8,870 百万円であります。</p> <p>9. 動産不動産の減価償却累計額 19,634 百万円</p> <p>10. 当行における準備金は、日本政策投資銀行法(平成 11 年法律第 73 号)第 41 条第 1 項の規定に基づ</p>

前事業年度 (平成 16 年 3 月 31 日)	当事業年度 (平成 17 年 3 月 31 日)
いて積み立てられているものであり、任意積立金として「利益剰余金」に計上しております。	いて積み立てられているものであり、任意積立金として「利益剰余金」に計上しております。

(利益処分計算書関係)

前事業年度 自 平成 15 年 4 月 1 日 至 平成 16 年 3 月 31 日	当事業年度 自 平成 16 年 4 月 1 日 至 平成 17 年 3 月 31 日
<p>1. 準備金積立額は、日本政策投資銀行法施行令（平成 11 年政令第 271 号）第 4 条第 1 項乃至第 3 項の規定に基づき計算された当期利益について、日本政策投資銀行法第 41 条第 1 項及び日本政策投資銀行法施行令第 3 条の規定に従い積立を行うものであります。</p> <p>2.</p> <p>3. 次期繰越損失は、日本政策投資銀行法上当期の損失処理がなされない金額であります。</p>	<p>1. 同 左</p> <p>2. 国庫納付金は、日本政策投資銀行法（平成 11 年法律第 73 号）第 41 条第 3 項の規定に基づき、同法施行令（平成 11 年政令第 271 号）第 4 条の規定により計算された利益金の一部を国庫に納付するものであります。</p> <p>3. 同 左</p>

(リース取引関係)

前事業年度 自 平成 15年 4月 1日 至 平成 16年 3月 31日	当事業年度 自 平成 16年 4月 1日 至 平成 17年 3月 31日																																																																																				
<p>1.リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額</li> </ul> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">取得価額相当額</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">動産</td> <td style="text-align: right;">761 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">その他</td> <td style="text-align: right;">204 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">965 百万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">減価償却累計額相当額</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">動産</td> <td style="text-align: right;">367 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">その他</td> <td style="text-align: right;">51 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">418 百万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">期末残高相当額</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">動産</td> <td style="text-align: right;">393 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">その他</td> <td style="text-align: right;">153 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">547 百万円</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未経過リース料期末残高相当額</li> </ul> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1年内</td> <td style="text-align: right;">216 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1年超</td> <td style="text-align: right;">335 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">552 百万円</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当期の支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額</li> </ul> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">239 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">231 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">支払利息相当額</td> <td style="text-align: right;">7 百万円</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</li> <li>・利息相当額の算定方法 リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。</li> </ul> <p>2.オペレーティング・リース取引</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未経過リース料</li> </ul> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1年内</td> <td style="text-align: right;">- 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1年超</td> <td style="text-align: right;">- 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">- 百万円</td> </tr> </table>	取得価額相当額		動産	761 百万円	その他	204 百万円	合計	965 百万円	減価償却累計額相当額		動産	367 百万円	その他	51 百万円	合計	418 百万円	期末残高相当額		動産	393 百万円	その他	153 百万円	合計	547 百万円	1年内	216 百万円	1年超	335 百万円	合計	552 百万円	支払リース料	239 百万円	減価償却費相当額	231 百万円	支払利息相当額	7 百万円	1年内	- 百万円	1年超	- 百万円	合計	- 百万円	<p>1.リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額</li> </ul> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">取得価額相当額</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">動産</td> <td style="text-align: right;">931 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">その他</td> <td style="text-align: right;">226 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">1,158 百万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">減価償却累計額相当額</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">動産</td> <td style="text-align: right;">428 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">その他</td> <td style="text-align: right;">95 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">524 百万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">期末残高相当額</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">動産</td> <td style="text-align: right;">503 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">その他</td> <td style="text-align: right;">130 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">634 百万円</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未経過リース料期末残高相当額</li> </ul> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1年内</td> <td style="text-align: right;">242 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1年超</td> <td style="text-align: right;">409 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">651 百万円</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当期の支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額</li> </ul> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">312 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">270 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">支払利息相当額</td> <td style="text-align: right;">53 百万円</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</li> <li>・利息相当額の算定方法 リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。</li> </ul> <p>2.オペレーティング・リース取引</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未経過リース料</li> </ul> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1年内</td> <td style="text-align: right;">- 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1年超</td> <td style="text-align: right;">- 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">- 百万円</td> </tr> </table>	取得価額相当額		動産	931 百万円	その他	226 百万円	合計	1,158 百万円	減価償却累計額相当額		動産	428 百万円	その他	95 百万円	合計	524 百万円	期末残高相当額		動産	503 百万円	その他	130 百万円	合計	634 百万円	1年内	242 百万円	1年超	409 百万円	合計	651 百万円	支払リース料	312 百万円	減価償却費相当額	270 百万円	支払利息相当額	53 百万円	1年内	- 百万円	1年超	- 百万円	合計	- 百万円
取得価額相当額																																																																																					
動産	761 百万円																																																																																				
その他	204 百万円																																																																																				
合計	965 百万円																																																																																				
減価償却累計額相当額																																																																																					
動産	367 百万円																																																																																				
その他	51 百万円																																																																																				
合計	418 百万円																																																																																				
期末残高相当額																																																																																					
動産	393 百万円																																																																																				
その他	153 百万円																																																																																				
合計	547 百万円																																																																																				
1年内	216 百万円																																																																																				
1年超	335 百万円																																																																																				
合計	552 百万円																																																																																				
支払リース料	239 百万円																																																																																				
減価償却費相当額	231 百万円																																																																																				
支払利息相当額	7 百万円																																																																																				
1年内	- 百万円																																																																																				
1年超	- 百万円																																																																																				
合計	- 百万円																																																																																				
取得価額相当額																																																																																					
動産	931 百万円																																																																																				
その他	226 百万円																																																																																				
合計	1,158 百万円																																																																																				
減価償却累計額相当額																																																																																					
動産	428 百万円																																																																																				
その他	95 百万円																																																																																				
合計	524 百万円																																																																																				
期末残高相当額																																																																																					
動産	503 百万円																																																																																				
その他	130 百万円																																																																																				
合計	634 百万円																																																																																				
1年内	242 百万円																																																																																				
1年超	409 百万円																																																																																				
合計	651 百万円																																																																																				
支払リース料	312 百万円																																																																																				
減価償却費相当額	270 百万円																																																																																				
支払利息相当額	53 百万円																																																																																				
1年内	- 百万円																																																																																				
1年超	- 百万円																																																																																				
合計	- 百万円																																																																																				

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの

前事業年度(平成 16 年 3 月 31 日現在)

該当事項はありません。

当事業年度(平成 17 年 3 月 31 日現在)

該当事項はありません。



（重要な後発事象）

前事業年度（自 平成 15 年 4 月 1 日 至 平成 16 年 3 月 31 日）  
該当事項はありません。

当事業年度（自 平成 16 年 4 月 1 日 至 平成 17 年 3 月 31 日）  
該当事項はありません。

【附属明細表】

当事業年度（自 平成 16 年 4 月 1 日 至 平成 17 年 3 月 31 日）

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は減価償 却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引 当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
土地	-	-	-	20,395	-	-	20,395
建物	-	-	-	34,459	17,989	807	16,469
動産	-	-	-	1,995	1,644	101	351
建設仮払金	-	-	-	-	-	-	-
有形固定資産計	-	-	-	56,850	19,634	908	37,216
無形固定資産							
権利金等	-	-	-	17	16	0	1
保証金	-	-	-	383	-	-	383
無形固定資産計	-	-	-	401	16	0	385
債券発行差金	3,481	694	202	3,973	1,378	349	2,594

- （注） 1. 土地、建物、動産の3つの項目は、貸借対照表科目では「土地建物動産」に計上しております。
2. 有形固定資産及び無形固定資産の金額は資産総額の100分の1以下であるため、「前期末残高」「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

【資本金等明細表】

区分	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	摘要
資本金（百万円）	1,194,286	21,175	-	1,215,461	
うち政府出資（百万円）	1,194,286	21,175	-	1,215,461	（注）
準備金（百万円）	1,000,908	26,113	-	1,027,021	

- （注） 当期増加額は、当行の経営基盤強化のための政府出資金の受入れによるものであります。

## 【引当金明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	395,881	49,132	64,598	100,130	280,284
一般貸倒引当金	249,415	-	-	100,130	149,284
個別貸倒引当金	146,465	49,132	64,598	-	130,999
うち非居住者向け債権分	-	-	-	-	-
投資損失引当金	13,903	6,620	15	-	20,508
賞与引当金	1,659	1,651	1,659	-	1,651
計	411,444	57,404	66,273	100,130	302,443

(注) 当期減少額(その他)欄に記載の減少額はそれぞれ次の理由によるものであります。  
一般貸倒引当金 洗替による取崩額

## (2)【主な資産及び負債の内容】

当事業年度末(平成17年3月31日現在)の主な資産及び負債の内容は、次のとおりであります。

## 資産の部

預け金 日本銀行への預け金 54 百万円、他の銀行への預け金 17,986 百万円であります。

その他の証券 投資事業組合等への出資金 45,759 百万円その他であります。

前払費用 賃貸借契約に基づく前払費用であります。

未収収益 貸出金利息 58,495 百万円、有価証券利息 643 百万円その他であります。

その他の資産 国庫への概算納付金 7,799 百万円、仮払金 868 百万円(訴訟関連概算払等)であります。

## 負債の部

未払費用 借入金利息 30,728 百万円、債券利息 5,531 百万円その他であります。

前受収益 繰上弁済補償金繰延勘定 16,401 百万円、債券に係る為替予約差額 2,237 百万円その他であります。

その他の負債 貸付償還金 7,939 百万円その他であります。

## (3)【その他】

該当ありません。